

『障害者はかわいそうな人ではない』

国際医療福祉大学院 修士1年 中村 敏

高橋先生へ

今回、先生のお話を聞かせていただき、障害を持つ方への考え方が大きく変わりました。

まず、一つ目は「出来ないことはない」ということです。講義の中でできることと出来ないことを考えることがありました。

はじめ、私は、目が見えないということは多く事ができないと考えていました。しかし、先生はiPhoneを使用し目的地に行くことができる。運転は出来ませんが、タクシーなどの他の手段を活用し、運転の目的である「目的地に行く」事で代用できるとの事でした。「出来る」「出来ない」は、すべてを自分自身でやることでない、行動には目的あって、その目的を達成するためにどう他の手段を用いるかということでした。

障害を持つ方イコール多くのことが出来ない、制限されている方という考え方が大きく変わりました。

「障害者はかわいそうな人」ではないという話がありました。このことに対して、正直、私は障害を持つ人に対して私も同じように思っているかもしれません。きっと、町で見かけたら目で追ってしまうかも知れませんが、何か不自由していないかと考えてしまうかもしれません・・・。

もちろん、困られている方もいるかもしれませんが、多くの方は高橋先生のおっしゃるように「必要なことを普通にやっている」だけなのかもしれません。自分の思い込みに衝撃を受け、考え方が変わりました。実際に多くの方は高橋先生のおっしゃるように私と同じように思っていると思います。今回、感じたことを多くの人と共有したいと思いました。

高橋先生は「富士山に登ります」、「ブラインドサッカー」もやりますとおっしゃっていました。出来ないことはないとおっしゃっていましたが、私が同じ立場ならきっと先生ようにはできないと思います。

お話の中では、目が見えないことで苦労されたお話はほとんどなかったように思います。先生のお人柄もあると思いますが、その部分は伝わってきませんでした。きっと多くの苦労もされていると思います。ものすごく強い方だと思いました。どのように現在に至ったのか、その観点でもお話を聞いてみたいと思いました。

今回、貴重なお話をありがとうございました。GRICの活動についても小学生の娘に伝えたいと思いました。今後もお体に気をつけてご活躍下さい。